

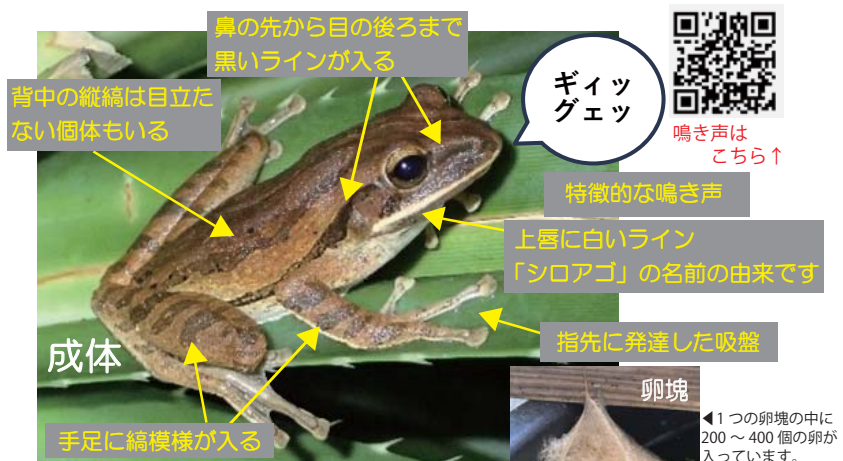
奄美の風だより

2023年5月に徳之島で特定外来生物シロアゴガエルが確認されました。徳之島での速やかな防除と、群島での侵入監視、モニタリングが必要です。

【特定外来生物とは】

外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれのあるものの中から指定された、特に影響が大きい動植物のことです。輸入・放出・飼養・生きたままの移動（輸送）・譲渡などの禁止といった厳しい規制がかかります。

シロアゴガエルは在来のカエルや昆虫類など生態系への影響が懸念されています。



間違いやすい
在来のカエル3種
アマミハナサキガエル
・体長 6～10cm
・指先の吸盤は小さい
・主に地上で活動

アミアオガエル
・体長 4～8cm
・上唇に白いラインは入らない
・産卵は 12～5月頃
※卵塊はそっくりなので、4～5月は見分けが難しい

リュウキュウカシカガエル
・体長 2.5～4cm と小さい
・指先の吸盤は小さい
・背中から見ると、両目の間にV字の模様がある

卵塊
◀ 1つの卵塊の中に200～400個の卵が入っています。メスは夏の間に何度か産卵します。



幼生 (オタマジャクシ)
◀ 褐色～クリーム色で、大きくなると約4cm。目は頭の両側に離れて付いています。

シロアゴガエルの特徴

- ・体長 5～7cm、茶褐色、4～10月に繁殖
- ・卵塊はクリーム色の泡状（約10cm）
- ・繁殖力が強く、比較的乾燥にも強い
- ・タライなどに溜めた水の中でも繁殖する
- ・特徴的な鳴き声や卵塊
- ・オタマジャクシには鼻先に白い点がある

シロアゴガエル対策（島のカエルや昆虫を守るための取り組み）



◀ 徳之島では町や NPO と協力してシロアゴガエルの侵入箇所の把握やそこでの防除を開始しています。
▶ 奄美大島やその他の島ではシロアゴガエルの侵入があった場合、いち早く気づくため、シロアゴガエルについての普及啓発や市町村と合同で侵入状況の調査を行っています。



成体や卵塊を見つけたら、鳴き声を聞いたらご連絡ください！！
TEL. 0997-55-8620 奄美野生生物保護センター
0997-85-2919 環境省徳之島管理官事務所



センターからのお知らせ



今回のお知らせでは、アマミノクロウサギ等の野生動物との交通事故を減らすために奄美大島や徳之島で取り組まれている対策をいくつかご紹介致します。

*** 奄美大島・徳之島で行われている対策 ***



左：路面標示と減速帯（バンブ） 右：動物横断注意の標識



左：事故多発地点に設置する移動式看板 右：アマミノクロウサギ道路進入防止ネット

主な対策としては、交通事故注意を呼びかける路面標示や道路標識、また近年新たに組みだした減速を促す移動式看板や道路侵入防止ネットなどですが、この他にも野生動物との交通事故を防ぐ対策が島内でたくさん取り組まれています。しかし、島の希少な生きものを交通事故から守るためには、これらの呼びかけに島の皆さんが注意を向けてくれることが重要です。

左のような看板・ネット等の対策を見かけたら、その周辺で交通事故が多発しているということです。車の速度を落して生きものを轢かないように安全な運転を心がけて頂きますようお願い致します。

2023年アマミノクロウサギ救護および死体確認数

(2023年1月～7月末時点)

- ・奄美大島
交通事故 **85**件 イヌ・ネコによる捕殺 **17**件
その他・不明 **35**件
- ・徳之島
交通事故 **19**件 イヌ・ネコによる捕殺 **3**件
その他・不明 **15**件

※不明は死体の損傷がひどく、死因が特定できなかったものことです。この中にも交通事故やイヌ・ネコによる捕殺が含まれます。
※未解剖も含むため、件数は変更する可能性があります。

まだまだ交通事故が
減らないよ・・・
もっと安全運転の意識が
広がって欲しいな。



※アマミノクロウサギの死体や傷ついた個体を見かけたら奄美野生生物保護センター (tel.0997-55-8620) までご連絡ください。



奄美群島市町村だより

自分たちが住んでいる地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は 和泊町 です



半崎

和泊町は、南は太平洋、北は東シナ海に面した沖永良部島の東北部に位置し、産業は農業が中心で、近年は観光にも力を入れています。

和泊町の蝶 「ツマベニチョウ」

白色がユリの花、黄色がユリの雄しべに似ており、和泊町の町章とも共通点がある。別名「幸せを呼ぶ蝶」と呼ばれている。



おすすめの観光名所「フーチャ(潮吹き洞窟)・ワンジョビーチ・笠石海浜公園」

「フーチャ(潮吹き洞窟)」
沖永良部島北海岸特有の切り立った断崖絶壁と、無数の棘の立った岩場が広がる独特な地形です。隆起サンゴ礁が荒波で浸食されてできた縦穴型の洞窟は、まるで大きな口を広げているかのような迫力があります。季節風や台風の際には20〜70mも潮が吹き上がることもあり、洞窟をのぞき込むと深い青色の海が渦を巻き、吸い込まれそうな光景は圧巻です。また、フーチャ付近の海中にはアオウミガメが食用として好む海藻が多く生えているので、海を下るせば遊泳中のウミガメに遭遇できるかもしれません。



「ワンジョビーチ」
白い砂浜とエメラルドグリーン
の海が織りなすコントラストが美しい、和泊町指定の海水浴場です。遠浅で遊泳しやすい為、夏季の海水浴シーズンには多くの海水浴客が訪れるビーチです。シャワーやトイレ、更衣室などの設備も整っているためファミリーユースにも最適で、小さなお子様とご一緒でも快適に過ごすことができます。満潮時には海の青さがより一層鮮やかになる為、毎日の潮位や潮汐を確認してから海水浴の予定を組まれることをおすすめします。隣接したキャンプ場にはテントスペースや炊事エリア(※要申込)もあり、キャンプも楽しめます。

「笠石海浜公園」
笠石海浜公園には、辺り一面が見渡せる展望台をはじめ、広々とした広場や四季折々の亜熱帯の花々を見ることが出来ます。その中でも4月中旬から5月初旬頃にかけては純白の「えらぶゆり」が畑一面に咲き誇り、壮観な眺めです！
品種によって少しずつ開花期が異なる為、訪れる時によって様々な品種のユリの開花を楽しむことができます。毎年島民の手によって植えられる笠石海浜公園のユリですが、2020年10月に「1時間に植えた花の球根の最多数」でギネス世界記録に挑戦し、見事ギネスに登録されました。また、公園内にはテントスペースや炊事エリア(※要申込)もあり、キャンプも楽しめます。



いきもののふしぎ ~ 夏の植物のお話し ~

夏になると山や里の緑が一段と濃くなり、一年で最も草木が生き生きとする季節になります。夏の時期は多くの植物が花を咲かせ、その姿を野外で見かける機会が多くなります。

ここでは奄美の夏を代表する花を6種紹介します。暑さ厳しい時期ですが、花を観察しに野外に出かけてみてはいかがでしょうか。



ノボタン

屋久島と琉球列島に分布する。花の色は紫色が一般的であるが、まれに白い花が咲くこともある。花期は春〜夏。



サクララン

九州南部から琉球列島に分布する。葉は多肉質でつるを伸ばして樹や岩をよじ登る。夏から秋にかけて白紅色の花を密につける。



ツルラン

九州南部から琉球列島と小笠原諸島に分布する。奄美では最もよく目にするエビネの仲間、夏から秋にかけて大の字に裂けた白い花が咲く。



キバナノセッコク

伊豆諸島と四国から琉球列島に分布する。湿度の高い川沿いの樹上に垂れ下がるように生育し、6〜7月頃黄色い花を咲かせる。



アマミマツバボタン

奄美群島の固有変種。海岸の岩場にも生え、多肉質な葉が特徴。5〜9月頃黄色い花を晴天の午前中にだけ咲かせる。



サガリバナ

奄美大島以南の琉球列島に分布し、奄美では6〜9月頃開花する。豪華で美しい花は夜に開花し、翌朝には落ちてしまう。

センターの新メンバーの紹介

アクティブレンジャー

奄美野生生物保護センターに1名の新メンバーが加わりました！

野中 賢治 (のなか けんじ)

プライベートなお話

出身：大阪府
年齢：49歳
趣味：さんしる (三味線)

野中さんから皆さんへメッセージ

今年の6月より、環境省奄美群島国立公園管理事務所へアクティブレンジャーとして着任しました野中賢治と申します。国立公園の巡視パトロール、モニタリング、密猟・密輸・盗掘・違法採取の対策、希少な昆虫類の調査を主に担当しています。

奄美事務所に来てまだ2ヶ月程ですが、早く生活や仕事にも慣れていきたいです。古(いにしえ)の先人達は如何にして奄美の自然と共生してきたのか、この奄美生活を通して感じてゆけたらと思います。また、増加傾向にあるアマミノクロウサギ等のロードキル緩和にも努めていけたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。



好きな言葉
温故知新